

## 【パンデミックは預言されていたか】

## —患難時代と四騎士の裁き—

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

今日は、いよいよ患難時代の預言について、一緒に考えてみたいと思います。

預言というと、今、ある人物のプレゼンテーション動画がものすごく注目を浴びています。ビル・ゲイツ。マイクロソフト社の創業者として有名ですね。たった8分36秒の動画ですが2500万回。日曜日には2600万回になってるかも分かりません。5年前『TED』というプレゼンテーションのカンファレンスで話したものです。私も『TED』は必ず目を通すようにしています。

これは、毎年1回5日間連続のカンファレンスで、70人のスピーカーが登場して話をします。

大体10分くらいの話が多いのですが、70人の話を5日間聞く事ができるチケット、1万ドル。110万円。講演者たちの謝礼はゼロ。それでも、多くの講演者は「是非出たい」と思っています。なぜなら、100万円以上出してもそこに話を聞きに来る人々は、世界的・国際的に非常に影響力があるから。彼らの心を動かす事によって、世界に感化を与える事ができるのです。

5年前の2015年、ビル・ゲイツは講演をしました。タイトルは『もし次の疫病大流行（アウトブレイク）が来たら？ 私たちの準備はまだ出来ていない』…「次に来るパンデミック・疫病大流行。しかし、私たちに何の準備もない」…というテーマです。

ピンク色のセーターを着たビル・ゲイツが、子供の背丈くらいあるような、大きなドラム缶を台車に乗せて、ガラガラと押して来んです。「これ、何か分かりますか？」ドラム缶。

「私が幼い時は、このドラム缶の中に缶詰や水や保存食が備蓄され、地下室に置いてありました。何のため？ 私の少年時代、人類の最大の危険は核戦争だと思われていたのです。核ミサイルが飛んで来たら、とにかく家の地下にある核シェルターに入って、ドラム缶の中にある物で食いつないでいくという考えでした。しかし、次に人類存亡の危機に迫るような大災害があるとしたら、核戦争ではなく、これが大きな問題です！」と言って、スクリーン全体にバーンと映像が出たのがコロナウィルス。5年前ですよ。

そして彼は、エボラ出血熱の話我突然し始めます。これをくい止めるために、彼の財団がたくさんお金を出したんです。エボラ出血熱はアフリカの1つの風土病というか、ウィルスで起こる病気で、血管が弱くなり、ひと言で言うと、身体の穴という穴から出血して死ぬんです。最後は皮膚の穴からも。あるドクターが言ってました。「患者が爆発する病気」。バーンと炸裂した時血しぶきが飛んで、その返り血を浴びたドクターたちが、次々に同じ病気になって倒れたのです。

エボラ出血熱は今まで5回流行しているのですが、日本人がそんなにピンと来てないのは、アフリカの数か国でくい止める事が出来ているから。なぜくい止められたかということ、空気感染しないのと同時に潜伏期間が短くて、発症するとすぐに重症化し、うろついて移動する元気がなくなるからです。なので、特定の地域で流行ると、そこで抑え込む事ができるのがエボラ出血熱だそうです。

だけど、彼はこう言うのですね。「次のパンデミックが、こんな幸運なものという保証はどこにもない。もし次に来る感染症が、罹っても自覚症状がないという人が殆どで、しかし、重症化したら死に至るというものなら、それが世界中に蔓延すると、くい止めるのは至難のわざであり、人類は大きなダメージを受けるだけでなく、経済的にも非常な損害を受ける事になるだろう。」これが5年前。

今年 2020 年、彼が言った通りの病気が世界中を席卷し、人々はもがき苦しんでいる。感染者 836 万人。アメリカでは 8 万人以上の方が亡くなって、ベトナム戦争の死者を超えている。大きなダメージを受ける事になった。

彼は「核戦争を抑えるために、人類はたくさんのお金を使って、抑止力のために色んな知恵をやっているが、核戦争よりもっと可能性のあるパンデミックについては全然準備が出来ていない!」

彼の先見の明・先を見る力はすごいというのが半分。もう半分はボロカス。

陰謀論に基づいて、ビル・ゲイツがやっている事を色々悪く言う人たちもいるんです。

今回、WHO の評判が随分悪くなりましたね。WHO に一番たくさんお金を払っているのはアメリカ政府と言われていて、国連加盟国はそれぞれ分担金を払っていますが、一般の民間企業も寄付できます。

寄付の方が、加盟国の分担金よりもはるかに多い。アメリカ政府とビル・ゲイツ財団、及びアメリカとイギリスのワクチン会社が寄付しているお金は WHO 予算の 4 割です。

ある陰謀論に立つ人たちは「これ、何かあるで。こんなに見事に的中するって、おかしいで。実は WHO を使って、自分たちの陰謀・企みを実現しようとしているんじゃないか?」

ワクチンはめっちゃくちゃ儲かる。薬は病気になった人だけが使うけど、ワクチンはまだ罹っていない健康な人、すなわち何億人・十何億人・数十億人に使ってもらえる。ワクチン会社はホクホク。ぼろ儲け。メリットないのに莫大なお金を WHO に寄付するか? と。

陰謀論の強い人の中には、今度の新型コロナウイルスについても「ワクチンを世界中に採用させるために、何らかの働きかけがあったんじゃないか?」とまで言う人もいる。こういう陰謀論には、すぐに飛びつかない方がいいと思います。刺激的で面白いけど、しばらく様子を見て、その陰謀論者たちが言う通りになったら考えてみる価値がある。そうならなかったら、そんな見方でそう考えただけという事になるのですね。

ビル・ゲイツがとやかく言われるのには 1 つ理由があります。彼はビル・ゲイツ財団という何百億ドルの莫大な資本・私財を投じて、発展途上国の医療が遅れている所で慈善事業に専念している。

ビジネスから一線引いて、そういう事に集中していると言うけど、なぜそんなにお金があるのか?

だって、マイクロソフトのソフトが全部に入っている。皆さんのパソコンにも、ワードとかパワーポイントとか絶対入っている。

問題は、マイクロソフトは税金を払ってない。マイクロソフトだけではありません。

いわゆる GAFA(ガーファ)。IT の 4 大企業。グーグル・アマゾン・フェイスブック・アップル。

日本のアマゾン、2 年前の利益だけで 6 千億円。去年は 1 兆 2 千億円。日本に税金を全く払ってません。日本にアマゾンの工場がある。発送センターがある。日本国民の税金で造った道路を使う。下水道を使っている。色んな公共施設使っている。だけど税金払わない。

タックス・ヘイヴン(Tax Haven)で、合法的に罪に問われない脱税をしていると言われますが、GAFA とマイクロソフトだけじゃないですよ。皆さんが好きなスターバックスもです。日本企業の中にも、うじゃうじゃある。

色々言われるけど、彼には彼の言い分があると思うんですね。莫大な税金を納めて、それが実にくだらないう事に使われるよりかは、蓄えた資源を税金で払う代わりに、良い使い方だと思う所に、集中的に慈善事

業に使うて行くと言っています。

とにかく「ほんまか？ これはどんな意図でやっているのか？」と探られてしまうんです。探られる理由は、彼の言った事が当たり過ぎるから。前に言った事が、不自然なまでに数年後に起こっている。人間には未来予知能力などないはずなのに、なぜ彼が前もって言っている通りの事が起こるのか？何か、からくりがあるのではないですか？と。不自然だと。

今日紹介するヨハネの黙示録は、今から約 2000 年前に書かれた書物です。聖書全体が預言書だと言えますが、その中でも、聖書最大の預言は黙示録に書いてあります。この聖書預言は数年先の小さいエピソードではなく、これから人類がどうなっていくのか、人類歴史の終わりに起こる事はどんな事か。それを非常に詳しく語っているのが聖書です。それだけでなく、語りっぱなしではなく、実際に歴史を辿ると、聖書預言はことごとく、その通りに実現して来たのです。

実現した預言の中で、一番大きなしるしの 1 つは、やっぱりイスラエル建国ですよ。今日、収録日は 5 月 14 日。西暦で言うと、72 年前の 1948 年 5 月 14 日にイスラエルが再建されました。その前にイスラエルという国があったのは AD70 年です。約 1900 年振りに、元いた場所に国が出来るのですが、それは聖書に繰り返し預言されていたんですね。

イスラエルが再建されたという事は非常に大きなしるしで、終末預言はイスラエルを中心に回るんです。時間軸で見ましょう。やがて人類は、7 年間の特別な時代・非常に苦しい時代に入ります。人類は今までもいばらの道を何度もくぐって来たけど、そんなのとは比べものにならない 7 年間の苦しみの時代。これが患難時代で、前半と後半に分けられます。後ろに行けば行くほど苦しくなります。患難時代の前半と後半のちょうど真ん中の 3 年半で、世界は一層闇の世界に堕ちて行く。

患難時代のスタートには、1 つのしるしがあります。反キリストと呼ばれるヨーロッパから出て来る独裁者がイスラエルと 7 年契約を結ぶ事です。つまり、イスラエルという国が存在しない限り、患難時代は成立しないんです。イスラエル国がないと、反キリストが登場してても、契約の対象者がいないので患難時代はやって来ない。イスラエルが出来たという事は、患難時代突入の条件が 1 つ実現したのです。

反キリストは最初の 3 年半は非常に紳士的。しかし後半の 3 年半に入ると、化けの皮が剥がれて、自らを神と名乗り、めちゃくちゃな事をやり出す。だけど、それは永久には続かない。彼が神宣言して 3 年半後、それを強制シャットダウンさせるために、キリストが地上に再臨されて終わります。反キリストの 7 年契約で始まり、イエス・キリストの地上再臨で終わるのが患難時代。現在クリスチャンと呼ばれている人たちは、患難時代には地上にいません。

患難時代の前に、大きな 2 つのしるしがあります。

①キリストがまた来て、地上のクリスチャンたちを全て天に引き上げる。最近、「聖書の御言葉でこれの根拠を提示して欲しい」というお手紙がわんさか来ているのですが、これは [YouTube#121](#) でたっぷりお話していますので、それを見ておいて下さい。その上で、尚且つご質問があればメール下さい。

②エゼキエル戦争；非アラブ・イスラム諸国がロシアと共にイスラエルに入るけど、彼らは撃たれていなくなる。そして、いよいよ 7 年間の患難時代が始まる。スタートは、反キリストと呼ばれる人物がイスラエルと条約を結ぶ事からです。

では、ヨハネの黙示録 6:1-2

1 また私は、子羊が七つの封印の一つを解くのを見た。

そして、四つの生き物の一つが、雷のような声で「来なさい」と言うのを聞いた。

七つの封印で封じられている巻物は 7 年間の患難時代のプログラム。封印を解くに従って、時代が展開して行きます。私は黙示録を記録したヨハネ。子羊はイエス・キリスト。四つの生き物は、天の最前列で神を礼拝しているセラフィムと呼ばれる御使いたち。それについては過去に触れました。

1 つ目の封印を解いたら、雷のような声で「来なさい」という許可を得て、

2 私（ヨハネ）は見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている者は弓を持っていた。

彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得るために出て行った。

この後、封印を解くたびに、色のついた 4 種類の馬が出て来ます。これらの馬は、本物の生物としての馬なのか？他に意味があるのか？黙示録を見ても、色付きの馬の説明はありません。

そういう場合、黙示録より前に書かれた書の中に色付きの馬が登場しているなら、その意味で黙示録を解くのが大事な事。“聖書は聖書で解く”という事が大事な事です。

黙示録は「黙示録に至るまでの全ての聖書を読者が知っている」という前提で書かれているので、聖書に色付きの馬が登場した事があったのかを調べる必要があるのです。

例えば赤い馬。出て来たのか？出て来ました。ゼカリヤ書。

ゼカリヤ 1:7-10

7 ダレイオスの第二年、シェパテの月である第十一の月の二十四日に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような主のことばがあった。

8 夜、私（ゼカリヤ）が見ると、なんと、一人の人が赤い馬に乗っていた。

その人は、谷底にあるミルトスの木の間に立っていた。そのうしろには、赤毛や栗毛や白い馬がいた。

ここに 4 種類の馬が出て来ます。赤い馬・赤毛の馬・栗毛の馬・白い馬。

ゼカリヤはこれを、夜の静まった時に幻として見せられました。

9 私は「主よ、これらの馬は何ですか」と尋ねた。神は私にこれらの馬を見せて、何を悟らせたいのか？すると、私と話していた御使いが「これらが何なのか、あなたに示そう」と言った。

10 すると、ミルトスの木の間に立っていた人が答えた。

「これらは、地（世界）を歩き巡るために主が遣わされた者たちだ。」

「神が遣わした使者」をヘブライ語で「マラヒ」と言います。日本語の発音では「マラキ」。

マラヒ/マラキには御使いの意味もあります。御使いは神に仕える霊/天使です。

この 4 種類の馬は、神が遣わす霊的存在/天使/御使い。御使いはギリシア語で「アングロス」。

これが英語では「エンジェル」。天使。森永製菓のマーク。森永の初代社長はクリスチャンだったから。

さて、御使いは良い御使いばかりじゃない。いつも良い御使いを表しているとは限りません。

ここでは良い御使いです。なぜなら、赤い馬に乗っているのは受肉前のキリストだから。

同時に、悪い御使いがいるんです。サタンと共に、神に反逆して墮落した天使。いわゆる墮天使。今や、悪霊と言われているものたち。

先程の7つの封印で、1番目から4番目まで封を解くと、4種類の色付きの馬が出て来ます。これは、良い御使いではありません。悪い霊の御使いです。なぜなら、

**黙示録 6:2 私は見た。すると見よ、白い馬がいた。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与えられ、勝利の上にさらに勝利を得るために出て行った。**

**白い馬。**白馬の王子様は、何か良いイメージがあるかもしれませんが、それに乗っている騎士には3つの特徴があります。これは**反キリスト**です。

**1)弓を持っていた**；弓は持っているけど矢がない。弓は矢があって、飛び道具で使う事ができる。弓だけでは何の意味もない。**白い馬に乗っている人物は弓を持っていた。**

「弓」はヘブライ語で「ケシュット」。黙示録はギリシア語で書かれました。しかし、ヨハネ自身はユダヤ人で、ヘブライ語で書かれた旧約聖書の預言を用いながら黙示録を書いています。ケシュットには「弓」と、もう1つ「虹」の意味があるのです。

聖書で最初に「虹」という言葉が出て来るのは、神がノアの時代、大洪水で全人類を裁いて滅ぼした後、「わたしは二度と人類を水で滅ぼす事はしない」と平和宣言をし、しるしとして「虹」を見せました。

なぜ、**弓**が虹になるんですか？ 似てるでしょ、半円形で。つまり、裁きの道具を天で手放した。武器を持つのではなく、それを置いて、「もう裁きの戦いは終わったよ」という平和のメッセージ。それを届けるために弓を置いた=虹。と言っているのです。だから、**弓を持っていた**をヘブル的に解釈すると、最初に登場するこの人物は、地上に平和をもたらす者のようにして現れるという事です。

「なら、いいやん」と思うかもしれませんが、平和をもたらす者のように登場する人物の後に、**赤い馬・黒い馬・青ざめた馬**が出て来る。これらは全部呪いなんです。キリストは呪いを持って来ません。初臨も地上再臨も、人類に呪いをもたらすためではなく、解放をもたらすためです。ところが、**白い馬に乗っている者の**後に続くものは、人類にとって災害でしかない。**白い馬に乗っている者は、平和をもたらす者のようにして現れる。**

**2)冠を与えられた**；王冠ではなく、勝利者に与えられる月桂冠のようなもの。つまり、彼は多くの人々から支持され、絶賛され、憧れられるような姿で登場する。「リーダーを選ぶとしたら、あんな人にリーダーシップを取って欲しい」と、多くの人が進んで冠を捧げるような魅力的な人物として登場する。

**3)勝利の上にさらに勝利を得るために出て行った**；患難時代に入る前に、彼は既に勝利を得ている。恐らく外交による勝利です。一番の勝利は、誰がやっても解決しなかったイスラエルを巡る中東和平の問題を解決する。そして7年契約。その後、患難時代に3つの国を倒します。これが、**勝利の上にさらに勝利を得るためであった**という事。よって、ここの人物はキリストではなく**反キリスト**です。

なぜ、反キリストが白い馬に乗っているのか？自らをキリストであるかのように演出するためです。黙示録で、地上再臨するキリストは3つの白いもの、白い雲・白い馬に乗り、白い御座に着座される。それで、キリストだけがそうする事ができる姿を演出して登場する偽キリスト/聖書で反キリストと呼ばれる人物/ヨーロッパから出て来る悪魔的人物。でも、白い馬に乗っているから、登場した時はすごく紳士的です。

今、気を付けて欲しい事があります。政府が日本にいる人たちに「おじいちゃんもおばあちゃんも赤ちゃんも、働いている人も働いていない人も、全部、1人一律10万円を給付する」という政策を出しました。大阪、まだ来てない。この国民全員への給付金を巡って、詐欺が横行していると言うのです。

ある人が役所の職員を名乗って「給付金を受け取るためには、手元のキャッシュカードを変えなければならない。非常に煩雑な手続きだから、役所の人間として、自分が預かって10万円入れておく。」それでカードを渡して、200万円騙し取られたというおばあさんの例。

「新型コロナウイルス肺炎が蔓延し広がっております。マスクを無料で配布します。ご確認お願いします。」とURLが貼り付けてあって、クリックすると、個人情報が全部抜かれる。

色々な手の込んだ詐欺が次々に出て来るけど、なぜ騙されるのかというと、詐欺師は皆親切。詐欺師は困っている人に手を差し伸べる善人のよう。手続きが分からないお年寄りに、寄り添う姿で登場します。だから騙される。でも、やがて化けの皮が剥がれるんです。

日本でも世界でも、キリストを名乗るカルト宗教があります。「私がキリストだ!」とか言う宗教の開祖・教祖たちは、スタート時は実にジェントルマンとして登場するけど最初だけです。他の人の人生をむちゃくちゃにして行きます。大体、怪しい奴ほど上品やね。なんか、不必要なまでに優しい。そんなん変や。気い付けて下さい。だからと言って、品がないのは良くないと思いますよ。それについては、気い付けたいと思ってるんです。私もね。

反キリストは、そのスケールが限りなくすごい。人々が「これがキリストではないか?!」と見間違ふかのようなリーダーシップを取って登場するのです。

患難時代の前半の前半が7つの封印時代。前半の後半が7つのラッパ時代。

前半の前半の最初に出て来るのが白い馬に乗った反キリスト。

それは、「患難時代は、反キリストとイスラエルの和平条約によってスタートする」という事を裏付けているのです。

#### 黙示録 6:3-4

3 子羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。

4 すると別の、火のように赤い馬が出て来た。それに乗っている者は、地から平和を奪い取ることが許された。人々が互いに殺し合うようになるためである。また、彼に大きな剣が与えられた。

火のように赤い馬に乗っている者と書いてあるでしょ。「物」ではなく「者」。

これは、擬人化と見る事も出来るけど、私は聖書は聖書通りに読むのがいいと考えているので、「地上の平和のバランスを崩すために働きかける悪の霊がいる。」

地から平和を奪い取ることが許された。7年間の患難時代、でかい戦争が3回あります。

1回目は患難時代前半の前半。

2回目は患難時代の真ん中。反キリストが神宣言した時、それを認めようとしない3か国に対する戦争。

3回目は地上再臨したキリストに対抗するハルマゲドンの戦争。

後ろに行くに従って酷い戦争になるけど、1回目の戦争も、決して小さい戦争ではない。

なぜなら、この時世界は10か国しかないから。今は200か国くらいありますね。

でも、エゼキエル戦争で国の数はグッと減ると思いますよ。仮に150あったとして、それぞれ10個のブロックに分かれて連邦国家となり、今国連加盟国は196か国ですが、世界は10か国になるんです。

10か国という事は、1つの国が今の国のイメージで15前後の国が固まっているという事だから、1つの国が非常にでかい。そのスケールで戦争するので、被害や災害は半端ない。

規模が大きければ被害も大きくなり、大勢が亡くなります。というのは、彼に大きな剣が与えられた。

強力な殺傷能力のある武器が、この戦争で使われるようです。当然、多くの被害者が出ますよね。

その結果、反キリストの虹のように見えた、あの平和はすぐに終わる。「この人物について行ったら、これから幸せな世界平和の時代が来る」と思われたのは束の間で、反キリストが約束する平和は、すぐに破られてしまうんですね。しかし、どうやらそれは、反キリストにとって想定内の事のようにです。

この危機をチャンスに変えて、却ってリーダーシップを発揮して行きます。

#### 黙示録 6:5-8

5 子羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が「来なさい」と言うのを聞いた。私は見た。すると見よ、黒い馬がいた。これに乗っている者は秤を手に持っていた。

1 頭目は白。2 頭目は火のような赤（血の色）。3 頭目は黒。不気味。

これに乗っている者は秤を手に持っていた。秤は穀物を量るための道具です。

6 私は、一つの声のようなものが、四つの生き物の真ん中でこう言うのを聞いた。「小麦一コイニクスが一デナリ。大麦三コイニクスが一デナリ。オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」

1 コイニクスは約1リットル。1 デナリは普通の労働者が1日働いて得る給金。仮に1万円とします。小麦たった1リットルが1万円。大麦3リットルが1万円。何を意味するか？ 飢饉です。

なぜ飢饉が起こるのか？ 天変地異・異常気象。夏なのに寒い。冬なのに暑い。梅雨なのに雨が降らず、収穫期なのにサバクトビバッタが来て、全部食い荒らす。農業技術はどんどん進んでいるけど、結局は天候任せなんですね。異常気象が始まると、人間はなす術もない。

同時に、戦争の結果生じた飢饉でもあるのです。穀物は世界の国が全部自給自足できるのではない。

自給自足できる国は殆ど無いんです。殆どの国は、大きな農業国の輸出穀物に頼っているんですね。

という事は、戦争が始まったら、食糧はその瞬間に戦略物資になるのです。

当然、今まで入って来た物が入って来ない。ストップしてしまう事がある。

新型コロナウイルスの世界最大の感染国はアメリカです。亡くなった方の数も頭抜けています。

それで、世界一感染者が多いという事で、隣のメキシコが国境を封鎖しました。これ、どう思います？

ついこの間まで、トランプ大統領が「メキシコ国境の間に壁を造って、入れないようにする」と言っていたのに、今メキシコの方がアメリカとの国境封鎖して、入って来ないようにしてくれと。無自覚の感染者に入って来られたら、この肺炎がメキシコで蔓延してしまうかも知れないからと、鉄壁の守りですよ。

アメリカの大規模農業は、季節労働者を雇って農作業をしています。季節労働は植え付けの時だけ・収穫の時だけ・選別の時だけなど。農業は奥が深くて、経験を積んだ季節労働者でないと出来ない。そこでアメリカは、農業のためだけに入り、それが終わったらすぐに自国に帰るという、特別な農業ビザを発行しているのです。それがないと、世界最大の穀物輸出国であるアメリカの農業は立ち行かないのですが、その季節労働者はメキシコ人なんです。今、新型コロナウイルスのために出入りできない。

穀物は先物取引で値段が決まります。アメリカの小麦が・大豆が・穀物が上がる!となれば、大変な事になって行くのではないかと、他の食糧輸出国が制限を始めた。今ロシアは小麦の輸出制限を掛けています。世界最大のコメ輸出国はベトナム。3位はカンボジアかな。両国ともコメの輸出制限を掛けました。戦争ではない。だけど、戦争のような状況。緊急事態が発生した時、やっぱり最後の切り札は食えるか食えないか。穀物です。

火の馬が出て来て戦争になった時、異常気象と、そして、戦争のあおりで戦争物資化した食糧の価格が跳ね上がって、小麦1升1リットルが1万円。貧しい国々の人たちは穀物を買えない。食えない。

オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。オリーブの木とぶどうの木の根は深い所まで張るので、比較的飢饉に強い作物だと言われているけど、贅沢品でもあります。どんなギリギリの戦争でも、有る所には有る。どんな食糧難の時代でも、持つとる人は持つとる。この時、オリーブとぶどうは守られているようですが、いずれにしる食糧難が来る。

食糧難になるとどうなるか? 昔、日本で米騒動がありましたね。ロシアが共産革命になったのはなぜか? レーニンに革命を乗っ取られる前、ロシア・ロマノフ王朝が倒れた革命がありました。それは、お母ちゃんたちの“パン寄こせ運動”から始まったんです。食糧が無くなって行くと、大抵の事は我慢できている一般庶民が「ええかげんにせえよ!」と立ち上がり、国内政治は不安定になって、いよいよリーダーシップが必要になります。

**7 子羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が「来なさい」と言うのを聞いた。**

災いをもたらす馬たち・騎士たちは、自分勝手に暴れ回る事はできません。神が許した範囲でないと活動できないんです。第四の生き物の声が「来なさい」と言うのを聞いた。その許可を受けて、

**8 私は見た。すると見よ、青ざめた馬がいた。これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。**

私は見た。すると見よ、青ざめた馬がいた。これに乗っている者の名は「死」で、よみがそれに従っていた。乗っている者が「死」。足軽みたいに付き人で、後ろから必ずピッタリと付いて来るのが「よみ」。4番目の展開は「死とよみ」です。

死は肉体を滅ぼす事。よみは肉体から離れた魂を苦しめる場所。死とよみがワンセットになっている。身も心も絶望に追いやる事が、患難時代の前半の前半で4番目に起こる。どんな事か?

彼らに、地上の四分の一を支配して、剣と飢饉と死病と地の獣によって殺す権威が与えられた。

4 つのもので、世界人口の 1/4 が殺されて 3/4 になる。短期間で 1/4 が殺されて死に絶える。

4 つのものとは、①剣（戦争）。②飢饉（食糧不足）。その結果③死病（栄養失調・抵抗力低下で病気、或いは餓死）。そして④地の獣によって殺す権威。「死んだ人間が地面にゴロゴロ倒れている。それを獣が食べる」というのではないですよ。地の獣が殺すと書いてある。

戦争と食糧危機と病気と動物に襲われる事で、世界人口の 1/4 が消えるって、大袈裟すぎるでと。

今世界人口 77 億人ですよ。その 1/4 は 19 億人。

19 億人がわずか数か月で死滅するって、今の常識だとあり得ないと思ってしまうんじゃないですか？

ところで、地の獣によって殺すとあるので、現在人間が地の獣によって、どれくらい殺されているのかを調べてみました。

毎年、犬に襲われて死ぬ人は 2 万 5 千人。私も昔噛まれた事あるけど。死ぬって…。2 万 5 千人。

蛇に噛まれて死ぬ人は年間 8 万人。恐らく毒蛇。手当てが遅れ、血清を打つ事ができずに。8 万人も。

しかしそれよりも大きな、年間 40 万人を死に至らしめているものがあります。人間。毒蛇の 5 倍怖い。

殺人事件やテロのような人間の行為によって、毎年 40 万人殺されている。

ところが、人間に襲いかかって、はるかに上回る毎年 80 万人を死に至らしめているものがある。

蚊/モスキート。アフリカに行くと、吸血の時マラリア原虫を人間の皮膚に埋め込んでしまう。

マラリア原虫は単細胞生物です。マラリアに罹って亡くなる方が何十万人もいるんですね。

だけど、蚊が人間を物理的にぶっ倒すのではない。マラリア原虫という目に見えないもので倒すんです。

地の獣によって殺す権威。獣は「セリオン」という言葉で、獣と翻訳してもいいけど「生物」という意味。生物って、マラリア原虫も。病原菌も生物。

ウィルスは現代生物学の定義では生物ではない。微生物やと。生物とは自己増殖できる事が 1 つの条件だそうす。ウィルスは自己増殖できない。他人の細胞に入って増殖する。ウィルスは DNA か RNA のどっちかです。それが入った蛋白質のカプセルみたいなものですよ。ピンポン玉の中に毛糸が 1 本入っているイメージでいいと思います。それ自体は増殖できないが、細胞に入り込むと自分の DNA を複製して行く。だから「もの」と言えない。「生物ではない。でも微生物だ」というのは、そういう事です。

新型コロナウィルスは、コウモリから人に感染したと言われている。

これはある意味「コウモリという生き物によって殺された」とも言えるのです。

人類歴史を振り返ると、ごく短期間に 1/4 が亡くなった。あり得ないとは絶対に言えない。

14 世紀、ペストが大流行しました。当時の世界人口は 4 億 5 千万人。亡くなった方が 1 億人。22%。

これは世界で均した平均値で、イギリスとイタリアに限定すると、人口の 8 割が消えたんですよ。

2 割しか残らなかった。人口の 4/5 が消滅。ヨーロッパ全体では、2/3 がペストによって死に絶えました。

ごく短期間に人口が激減するのは、歴史上何度も何度も経験して来た事。

それが、患難時代の前半の前半に起こると、ここで語っています。1/4 が消滅する。

歴史を知らないと、「そんな大げさな話あり得ない」と思うけど、十分あり得る。

私たちは「あり得るだろうな」という時代を、今生かされているのではないですか？

8 節で殺す権威が与えられた。そして、戦争の話がピタッとやめます。

一旦、ここで戦争が落ち着いて、終戦を迎えるようなんです。それから、別の災いが来ます。なぜ、ここで終戦を迎えるのか？ 色々歴史をひも解いて考えてみました。これを見ると、何年間も続く戦争ではない事が分かって来ます。

20 世紀、人類は最初の世界的スケールの戦争をやらかしましたね。第一次世界大戦。1914 年-1918 年。4 年 3 か月ずっと戦って、日本も参加しました。あの第一次世界大戦が 20 世紀を解く鍵です。第二次世界大戦は、第一次世界大戦のやり直しと言ってもいいくらいです。

第一次世界大戦は、あれよあれよという間に世界中に広がったけど、なぜ収まって行ったかというところ、この時同時並行で、インフルエンザが大流行したのです。当時はスペイン風邪と言いました。第一次世界大戦で、スペインは連合国側にも同盟国側にも属さない中立だったので、スペインで大変な事が起こっていると分かったのです。

実は、連合国も同盟国も、スペインより先に、新型インフルエンザによってメチャクチャな状態だったけど、兵士たちがバタバタ倒れている事が敵に漏れたらヤバイという事で、お互い秘密にしていたんです。秘密で隠したがために、却って蔓延拡大し、当時の世界人口の 5 割が感染したと言われていました。つまり、戦おうにも戦えるだけの兵力・動ける兵士がいなくなりつつあった。この感染症が、第一次世界大戦の早期終結に一役買っていたという事なんですね。それを上回る殺傷力のある感染で、世界人口の 1/4 が亡くなった時、恐らくこの戦争は終息して行くのだと思います。

終息する中で、世界は大きく 2 つの流れに分かれて行きます。

- ① 反キリストに冠を献げ続けて行こうとするグループ。
- ② これは本物のキリストではない。本物のキリストは、いなくなったクリスチャンたちが宣べ伝え続けていたナザレのイエス。イエス・キリストこそは、人となられた神の御子・救い主だと信じるグループ。彼らはこの期間、大迫害を受けています。これは、反キリストも協力するけど、別の団体によって行われるのです。それは次回に。

聖書はなぜ、こんな恐るべき事を前もって語っているのか？ それでなくても、日々色々なストレスを抱えている。特に、こんな状況に於いては尚更の事です。慰めを得ようと聖書を読んで行ったら、次から次へと矢継ぎ早に、白い馬・赤い馬・黒い馬・青ざめた馬・世界人口 1/4 が死に絶える…。

黙示録の時代に生きている人たちは、もっと別の読み方でこれを読むと思うのです。

黙示録の患難時代に生きている人たちが、これを読めばどう思いますか？

ここに書いてある通りに、書いてある通りの順番で、次々に災いが起こるのを見た時、黙示録は単なる古典ではなく、生ける神の預言書である事を信じる根拠を得るのではないかと？

聖書の言葉を神の言葉として信じる事ができるのではないかと？

なにしろ、語られている事が、次々に目の前に展開しているのだから。

私たちはこの時代に入っていないので、多分こうなるだろうと聖書の中から話しているけど、彼らは目の前に見ている。次どうなるかを知るためのガイドブックが黙示録です。

聖書の神こそが本物の神。偽りのキリストと本物のキリストを見分ける手立ては、奇跡や特別な体験では駄目なんです。今も一緒です。特別な体験に頼っている限り、いくらでも騙されてしまいます。

真理を見分ける基準は聖書だけです。聖書が語っている事が本当だと信じるために、神は7年間の患難時代を、詳しく詳しく預言の形で書き残して下さいました。

私たちは患難時代にはいないけれど、患難時代の前に生きているので、それが手に取るように分かるような時代に生かされているとも言えるのです。

聖書を通して、この世界の真の主権者は誰なのか、創造主なる神・絶対主権者・目には見えなくても世界を統べ治めている方がおられる。その方はあなたを愛し、祝福を与えたいと願い、大切に思っているので、みすみすこんな時代に入って行って欲しくない。

**神は愛です。(Iヨハネ4:16)**。愛を持っていると言うより、神の本質が愛。あなたを本当に大切に思い、心からあなたの人生を祝福に導きたい。それで、一見恐るべき書物である**ヨハネの黙示録**を与えているのです。目には見えないけれど真の主権者がおられると信じる事は、本当に心強く・ブレない生き方をする秘訣の1つになるのではないかと思います。

15年ほど前、ある私立大学に公開講座の講師としてお招きを受けました。今でもよく覚えています。学生だけでなく、町の方々誰でも入れるという事で、大学も力を入れて大いに宣伝して下さい、色んな方が来られました。

テーマは『アブラハム契約で世界史を解く』。アブラハム契約は聖書の基礎を成す契約。神がアブラハムに「ユダヤ人を祝福する者は神が祝福する。ユダヤ人を呪う者は神が呪う。地上の全ての民族はユダヤ人を通して祝福を受ける。」

過去500年の歴史を紹介し、ユダヤ人を優遇した国は必ず繁栄し、逆にユダヤ人を苛め抜く国は必ず没落する。世界帝国の栄枯盛衰は、ユダヤ民族をどう扱ったかで面白いように見事に解ける。

それを、時間いっぱい精一杯お話ししました。

終わったら、ある人が「講師、質問!」。「講師、質問があります」と柔らかくじゃない。

その語気の強さで、クレームやと一発で分かりました。

実は、あるルポルタージュ作家。名前がどうしても出て来ない。色白で小太りのポチャツとした感じ。

「あなたはシオニストか? あなたは弱者の気持ちに分かってない! パレスチナ人の涙の叫びが分かってない!」と。私は現代イスラエルの事は一切語ってないんです。過去500年間の栄枯盛衰についてのみ限定で語っているけど、とにかくユダヤ人とかイスラエルとか聞くと、嫌で嫌でたまらないんでしょう。

話をすり替えて。「そんな話、いつしました?」「じゃあ、今答えて下さい」みたいな感じで。

まさか、そんな反応が来ると思わなかったの、私も頭が真っ白になって。出来るだけ誠意をもって答えようとしたけど、上手く言い返せなかったんです。後で振り返ると、なんか悔しい。

「こうでしょう? こうでしょう? どういう事例がありますか? 具体的に、こういうのがあるからおかしいというのがあれば、それについてお答えします」とやり取りしてたんですが、チャイムに救われました。

学生時代から、授業が終わるチャイムは大好き。終わった! 招いて下さった教授が「まあまあ」と。

その教授が私に悪びれて「こんな事になるなんて…。あんな人いらっしやるんですよ…。」

私も上手く言えなかったの、落ち込んでトボトボと帰りました。

それから10年経ちました。毎月1回、大阪城の近くにあるホテルニューオータニで聖書講演会をしていて、講演後に皆さんと食事をする時間があります。4-5人の女性が「質問いいですか?」と私のテーブルに来られました。開口一番「10年前に〇〇大学で一般講演なさったでしょ。その時ルポルタージュ作家

に質問されて、答えてらっしゃいましたね。その人がいっぱいワーって言って。覚えてますか?」  
忘れいでかいと。「あの時、私たち皆いたんです。娘も学生でそこにいて、皆、どう考えても高原さんの方が理にかなっている。まともな事を言っている。あのやり取りで、私たちファンになりました。」  
それやったら、その時言うてや。叱~られて~♪みたいな感じだったのに。  
「弁の立つ作家だし、素人の私たちが口挟んでも、火に油を注ぐみたいだったので言えなかったんです。」

私、色々考えた。聖書の世界観は、いつも歓迎される訳ではない。むしろ、それを明確に宣言すればする程、宣べ伝えれば伝える程、却って反発を招く事があるんです。「何が神だ!」「そんな話は聞きたくない!」その反発が激烈になる時、しばしば味方は1人もなく、心情的に孤軍奮闘・孤立無援・一人ぼっち…。

ところが、見る人はちゃんと見てるんですよ。どんなに一人ぼっちと思っても「聖書の価値観はこうです!」とまっすぐに語ったら、それに立っている人は応援してくれています。ただ、その時に声をあげるとは限らない。大抵、声上げない。ほとぼり済んで、10年後くらいに名乗り出るので。

でも、それが分かってから、孤立無援に思える時でも、「きっとここかしこに『高原、頑張れ!』と、声を上げないサイレントな味方がこの会場にいる」と思うと、陽気な私に戻ります。  
声を上げないけどエールを送ってくれていると力が湧く。人間のエールでもこんなに嬉しい。とするなら、よくよく考えたら、聖書の神様はサイレントな応援者だと思います。

私は今まで、物理的に神の声を聞いた事は1回もない。神の姿を見た事も1回もない。  
でも、神がどう考えておられるか、ある程度分かっていると信じています。  
なぜなら、神の考えは聖書の中に啓示されているから。聖書で十分。聖書が神の言葉です。  
神の言葉に矛盾するような体験は、聖書から出ているのではない。  
神は、聖書の御言葉に立つ者を喜んで祝福して下さる方です。

「まだイエス・キリストを信じてない。神様が分からない」という方でも、聖書の言葉にすがって、聖書の言葉を信じるなら、それが神を信じるという事です。神の性質と聖書の言葉は矛盾しません。  
聖書の言葉を理解する事が神の心を理解する事。聖書の言葉を信じる事が神を信じる事とイコールです。

**Ⅱ テモテ 3:16 聖書はすべて神の靈感によって書かれたもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。**

聖書はいのちを与える事ができる神の言葉です。  
いかがでしょう。黙示録を通して、聖書が信頼できる御言葉だと思われたら、同じ著者である神様が同時に語っている救いの言葉も、信頼に値すると受け入れる事ができるのではないのでしょうか。

ぜひ、聖書をお読み下さい。「もし創造主がおられるなら、私にも分かるようにして下さい」と祈られたら、神様はきっと応えて下さいます。  
皆様の上に素晴らしい祝福がありますように願っております。  
最後まで、ご清聴ありがとうございました。

~~~~~

\* ビル・ゲイツの TED 動画 [https://www.youtube.com/watch?v=6Af6b\\_wyiwI](https://www.youtube.com/watch?v=6Af6b_wyiwI)  
\* 動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」検索。ぜひ見て下さい。  
\* ラジオ番組「聖書と福音」(約14分)も是非どうぞ。YouTube もあります。

動画筆記 : Rumi